Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

クイズショー小委員会発

夏休みイベント「なぜナニ化学クイズショー」

8月1日（土），2日（日）に科学技術館（東京都千代田区）で開催された「夏休み子ども化学実験ショー 2026」において「なぜナニ化学クイズショー」を実施しました。化学に関するクイズを出題した後に，実験によって正解の確認と解説を行いました。今年は実験後の解説を簡略化することにより，実験をこれまでの3つから4つに増やし1日2回講演しました。

今年からの試みで事前予約制として各回定員を80名としました。予約での参加者数が1日目130名，2日目134名，当日参加者が各回10名前後でほぼ満席でした。

1日目の1問目は齋藤敦教諭（暁星中学校・高等学校）が「密閉した長さの違うろうそくの消える順番は？」を演示。2問目は小柳めぐみ教諭（豊島岡女子学園中学校・高等学校）が「食用油にドライアイスを入れると？」を，3問目は「ドライアイスを電子レンジでチンすると？」を高島壮大教諭（豊島岡女子学園中学校・高等学校）が実験しました。最後の宮本一弘教諭（開成中学校・高等学校）の「むらさきいもの水溶液にドライアイスを加えるとどうなるか？」では，水溶液の色が一気に赤く変わる様子に会場からは歓声が上がりました。





2日目の1問目は宮本教諭が「真空容器の中の缶コーヒー」を，2問目は茂串圭男教諭（埼玉県立越谷北高等学校）が「赤しその葉をお湯に入れると？」を演示しました。3問目の岩井秀人教諭（逗子開成中学校・高等学校）による「飽和食塩水にアルコールを入れるとどうなるか？」では析出した食塩の結晶がメスシリンダー内を雪のように降る様子を見せ，最後は鈴木孝雄教諭（東京都立江戸川高等学校）が「ビタミンCでうがい薬の色を消す」の実験を行いました。

化学の楽しさや面白さの体験を通じ，未来を担う子供たちに化学に興味をもたせることができたものと期待しています。

（**内藤卓哉**　クイズショー小委員会　委員長）

北海道支部発

2026 夢・化学-21 化学への招待
「北海道大学化学系への二日体験入学」

北海道大学では，次世代を担う高校生に化学への興味と理解を深めてもらうことを目的として，2026 年度に化学イベントを開催しました。今年度は 8 月 3 日（月）・4 日（火）の 2 日間，北海道大学札幌キャンパスにて対面形式で実施し，参加者は高校生 72 名でした。北海道は広域であるため，前泊して参加した生徒も多数見られました。初日の特別講義では，北海道大学理学研究院の永木愛一郎教授による「『流れ』にのって化学を変える」と，同大学工学研究院の真栄城正寿教授による「手のひらサイズの化学工場」を行いました。いずれの講義でも活発な質疑応答があり，参加者の高い関心がうかがえました。2 日目の実験体験では，参加者はキャンパス内の 20 の研究室に分かれ，事前に申し込んだテーマに沿って，実際の実験室での実験や計算機シミュレーションを体験しました。スタッフや大学生との交流を通じて，大学で学ぶことへの興味や意欲が一層高まった様子が見受けられました。事後アンケートでは，特別講義について「大変興味がわいた」「大学の研究内容をはじめて理解できた」「高校で学んだ内容の延長線上に最先端の科学があるとわかり，とても楽しかった」などの感想が多く寄せられ，好評でした。実験体験についても，「実験だけでなく大学生活についての情報も得られた」「大学院生と先生の距離感が素敵だと感じた」などの声があり，研究室を訪れて体験したからこそ得られる貴重な学びがあったことがうかがえます。





今回の化学イベントがきっかけとなり，参加した高校生が化学の道に興味を持ち，将来の進路選択につながれば望外の喜びとするところです。

（**永木愛一郎**　北海道大学大学院理学研究院　教授）